

『007ダイアモンドは永遠に-Diamonds Are Forever-』

(1971年公開) ※DVDレンタル・販売あり

ダイヤ密輸ルート解明に挑むジェームズ・ボンド
原作小説で豪華客船気分も満喫したい

007は船がよく登場する映画シリーズだ。日本を舞台にした「007は二度死ぬ(1967年)」で、敵に追い詰められたボンドが港で気を失うシーンにチラリと映るのは、特徴ある二本線のファンネル。一目で日本郵船の船だと認識できるだろう。敵のアジト「ニンボー号」としての出演だ。今回紹介する「ダイヤモンドは永遠に」にも、クライマックスシーンで豪華客船が登場する。

ボンドガールと二人船旅で殺し屋コンビに襲われる

200万ポンドものダイヤモンドが、掘削作業員やその周辺関係者によって横流しされているという。密輸されたダイヤが市場に巡回ると、イギリス経済が大きなダメージを受

ける。危惧したMI6諜報機関は、秘密情報部員007ことジェームズ・ボンドに、ダイヤモンド密輸ルートの解明を命じる。ボンドは運び屋フランクスにすり替わって、謎の美女ティファニーに接触。寝返ったティファニーの協力で黒幕を見事やつつける。その後、二人でロンドンに戻る豪華客船の船内で、殺し屋コンビに命を狙われ……。

この豪華客船として登場するのが、P&O社「SSキャンベラ」号だ。客船用蒸気タービンの中で、当時最強の出力を誇った「ターボ・エレクタニック推進」を搭載し、話題の船として1961年にイギリス・オーストラリアの定期航路就航デビューする。しかし、時代のニーズはすでに航路から空路へ移っていた。定期航路路線は次々と廃止・縮

小されていった。映画登場から3年後の1974年には、クルーズ客船として改造され、第二のデビューを飾る。1982年には「大きな白い鯨」のニックネームで、イギリス国防省の輸送船としても活躍。1997年に引退した。

豪華客船でロンドンに向かう
ジェームズ・ボンドとティファニー

(イラスト：吉崎 英二郎)

世界で累計1億部超
シリーズ4作目が原作

007は、イアン・フレミングによるスパイ小説シリーズだ。元スパイが書く、世界を股にかけて活躍する「ジェームズ・ボンド」シリーズはたちまち世界中で大反響を巻き起こし、この後のスパイ小説ブームの火付け役となった。60年以上前に刊行して以来、長編12巻、短編2巻続き、世界でシリーズ累計1億部以上売れている。フレミングが死して半世紀以上経つが、残した作品の中

にヒントを見つけて、007映画は続いている。

本作は、1956年に発行されたシリーズ第4作が原作だ。フレミングはボンドを「目立たせたくなかった。彼の身辺では派手なことが起きるが、本人は地味」にしたかったらしい。今回、原作小説を改めて読んでみると、演じたショーン・コネリーより、6代目ダニエル・クレイグの方が寡黙でタフなボンド像に合っている。登場する客船は「クイーン・エリザベス」号。船内のボンドとティファニーの様子を、総ページ数の4分の1を割いて細かく描写している。

ギャング団から賞金1万ドルをかけた二人は身を案じて、別々の船室で、できるだけ外出しないように指示されていた。ティファニーが、3日ぶりにボンドと顔を合わせたのが展望室にあるカクテル・バー。船首の半円型のピカピカに光るバーの、薄暗い隅の席で、「このボロ船に乗っても、私は楽しい思いをしたいのに！」と久しぶりに会ったボンドに拗ねて甘えて愚痴るティファニーの可愛さを真似したり、レモンの皮を添えたウオッカのドライ・マティーニを注文したり。殺し屋が潜むA49船室や、その真上にあ

るボンドの船室で写真撮影したクルーズ客もきつといただろう。小説を未読ならぜひ読んでほしい。特に、8時きっかりに鳴ったサイレンの描写から始まる出航シーンは、クイーン・エリザベス号で船出する気分にとっぷり浸れるだろう。

「SSキャンベラ」号
採用の深い(?)理由

クイーン・エリザベス号は1940年3月3日の処女航海なので、小説発表時は16年目、映画公開時は31年目。1969年にクイーン・エリザベス号は引退し、1970年に香港の船会社に売却された。映画の撮影はその微妙な時期だったので、交渉難儀の末に、「SSキャンベラ」号に白羽の矢が立ったのだろう。

映画公開まもない1972年1月9日、クイーンズ・エリザベス号は香港ビクトリア湾で洋上大学への改造中に火災を起こし、沈没する。「黄金銃を持つ男(1974年)」では、半分沈んで残骸と化していた最後の姿が見られる。映画公開翌年の1975年に解体された。

(クルーズ映画ライター あいさわみき)

猫缶とコーヒー缶とドライヤーによって発明された
007映画おなじみ「ホーバークラフト」

「ムーンレイカー(1979年)」ではゴンドラから変形してサン・マルコ広場を高速走行させたり、「ダイ・アナザー・デイ(2002年)」では北朝鮮の地雷原を疾走させたり、今回紹介の「ダイヤモンドは永遠に」でもドーバー海峡を渡らせたり。007映画でおなじみのホーバークラフトは、客船ではないが、誰もが一度は乗ってみたいと思ったことがある船舶だろう。平坦な面であれば、地上でも水上でも雪上でも区別なく進むことができる。高速性や水陸両用などの特性から「夢の乗り物」、近未来の交通機関として注目された。007シリーズでは、スパイが操る最先端の乗り物のイメージにぴったりハマる。

その原理は18世紀に考案された。1877年にイギリス人技術者ジョン・ソーニクロフトが地面効果で水の抵抗を軽減させることを考え、模型での実験に成功。現在の主流であるエアスカート付きのものは、第二次世界大戦でレーダー開発をしていたイギリス人発

明家クリストファー・コッカルルが考えた。1953年に猫缶とコーヒー缶とドライヤーを使い、大きな缶の中に小さな缶を入れ、小さな缶から空気を吹き出すと、大きな缶の底部の上に浮き上がることを発見したのだ。1955年には試作機を完成させ、特許も取得。しかし航空機産業にも造船業にも見向きもされず実用化は難しいと考えたコッカルルは、イギリス政府に国防目的で売り込み、1959年にドーバー海峡横断試行を成功させる。

予想に反して民間での実用化は進んだ。1962年には英国最初の商用ホーバークラフト運航が始まる。1966年には大型船も登場。イギリス海峡横断航路の定期運航だ。日本では1967年の熊本・長崎航路を皮切りに、1969年に伊勢湾、1971年に大分・別府、1972年に瀬戸内海、鹿児島、沖縄、八重山諸島で運行されたがすべて終了している。現在、民間定期航路はイギリス・ポーツマス海岸からワイト島への連絡便のみである。

